

平成 23 年 5 月 2 日

NPO 関西情報化維新協議会会員の皆様

KIIC 理事 藤井 達司

東日本大震災被災地先発隊報告書（未定稿）

期間：4月28日～4月30日（戸谷壽夫理事・佐々木洋本部統括理事）

4月28日～5月1日（藤井理事・稲田幸助 様【GEOソリューションズ役員】）

釜石市対応者：物資調達担当課長及び主査

【被災状況】

釜石～大船渡の被災状況を 2 日にわたり確認して参りました。避難所の状況は別項目で記載させていただきます。50 日を経過している状況は、地震の被害を受けた地区が完全に 2 分されている事が顕著に分かります。要するに津波被害のあった地区と津波の影響が無い、もしくは少ない地区です。津波の影響があった地区は電気も無いので、信号すらなく、人が交通整理をしており、崩れた堅牢構造物と”がれき”の山か、全てが無くなった街と”がれき”の山で、”がれき”だけでも後何カ月あれば片付くのか想像もできない状況でした。

一方、道一つ外れただけの津波被害が無いもしくは少ない地区は、クラックの入った建物・ガラスの無い建物は目につきますが、ライフラインも復旧しており平常を取り戻しつつあるように見えます。道路に面する一面全てがガラスの壁だったであろう店舗のケーキ屋さんが、ガラスが無い状況で営業しているような光景がいくつもあり印象的でした。

【現状聞き取り調査】

食料・衣類を中心とする生活必需品は 50 日を経過する中で現状の不足は感じませんが、「生きるために必要なもの」から、「あればいいもの」に変化して行っているようです。ただ、歯磨き粉や女性用シャンプー・コンディショナーのように、歯ブラシはあるが歯磨き粉は数に不足が生じたり、シャンプーはあるが女性には満足できないものであったりという状況はあるようです。今後は夏服の要求も出てくると考えられるとの事です。

【本の配布】

今回はマンガと小学生以下用の本及び少量の小説を、5カ所の避難所に配布しました。本もマンガも届いているのですが、どの避難所もマンガは大変喜ばれました。

本棚も2つ組み立てて来ましたが、衣装ケースは本を収納するという意味ではなく、被災者が荷物を入れておく意味でどの避難所でも欲されている事が分かりました。

【避難所での要求聞き取り調査】

50日もの間プライベートな空間の無い生活で、多くの方の我慢も限界にきているようです。また、避難所によって環境が大きく違う事も印象的でした。清潔で明るい避難所・家族単位で1m程度の囲いがある避難所もあれば、暗くて非衛生的な印象の避難所もあります。こういった所ではあまり動かないお年寄りが多いような印象が残りました。被災状況でも述べましたが、道一本隔てて、津波被害の無い地区では通常を取り戻しつつあるのですが、避難所にいる方々は、当然車も失っているので、この辺りは車が無いと何もできない事もあり、避難所から出られずに買い物もできないのが現実のようです。現に主査も、車も流され、震災以降釜石の外に出たのは、職場(釜石市役所)の車を借りて買い出しに一度行っただけだとのことでした。

この様な状況下で最も欲されるのは、この方々が少しでも動けるようなこと、コミュニケーションをとれるようなこととのことでした。具体的には戸谷理事が提案されたマッサージサービス等はこの両方を満たす内容のようでした。他には体操や散髪サービスや、2時間程度かかる花巻温泉までの送迎サービス等も話題としていいのではないかとされておりまして。

【最後に】

先発隊としてできる限りのことをしたく、28日8時30分には秋田について、被災地に向い、主査に手伝いたい意向を伝え”がれき”処理等も相談したのですが、それぞれ自衛隊を中心に役割が決まっており、この様な手伝いはできないようでした。宿泊も避難所は迷惑になるので、車の中位しかありません。お手伝いができないので宿を探しましたが、近くで営業している所は、応援部隊や工事関係者等、役所経由で宿泊所を決める方々でいっぱいであり、やはり花巻や北上(約2時間)まで行かなければ宿は無いようでした。また、夕方5時以降2時間は、釜石からも大船渡からも宿方面は渋滞しますので2時間30分くらいかかります。

思いつく所を自由に書かせて頂きました。最後にいくつか写真を取ってきました、現場の状況を知る参考になればと思います。

以上